



太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和5年8・9月号(第6号)
令和5年8月29日発行

【学校教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

喜んで登校 満足して下校

【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

「再会」

校長 三島 公夫

猛暑、豪雨、台風と、どうしても自然の猛威に気持ちが向きがちな夏休みでした。この度の災害等により被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。一方、アフターコロナ元年の夏休み、旅行や帰省で賑わった地域も多かったようです。また、各地でイベントやお祭りが復活し、お囃子や盆踊りの音頭など、4年ぶりの夏のBGMに元氣もいただきました。

今年の夏休み、私にはたくさんの「再会」がありました。その一つに、20年ぶりに痛飲した以前の勤務校の仲間との再会があります。体育大学を卒業した彼は、高校の体育科教員として採用されたのですが、私と同じ、埼玉県立秩父養護学校(当時、以下「秩養」)に着任しました。同い年ということもあって、彼とはよく気が合い、「教師とは?」とか「教育とは?」という話で盛り上がったものです。

よく話したことの一つに、「子どもにとって、将来にわたって大切な力は何だろう?」というテーマがありました。当時、秩養には10人ほどの同世代の教員が勤めていて、それはそれは皆で激論を交わしました! 皆で異論がなかった答えは、「根性」と「思いやり」、「やる気」の三つでした。「根性」というと、昔の根性論が思い浮かぶ方もいらっしゃるかもしれませんが、「がまん強さ」です。学力や体力などは、これらの三つがあればいつになっても伸ばせる、というのが当時の私たちの「見解」でした。余談になりますが、それからというもの、「今日の授業で根性はついたか?」とか、「この指導法でやる気は高まるのか?」と、日々自分たちの教育実践を振り返ったものです(皆で居酒屋に集まって……)。

さて、近年子どもたちに身に付けさせたい力として注目されているものに「非認知能力」があります。「非認知能力」とは、テストやIQなど数値で測れるような認知的な能力ではないものを幅広く指す総称、つまり、数値では測れない力、といえれば分かりやすいでしょうか。偶然にも、「がまん強さ」、「思いやり」、「やる気」の三つが当てはまります。

「非認知能力」については様々な研究がなされており、詳しくはそれを参照されるのもよいと思いますが、「非認知能力」の中でも、先の三つに加えて私自身がもち合せていたいと思う能力を紹介します。それは、やり抜く力、自制心、集中力、工夫する力、失敗から学ぶ力、自分を信じる力、楽観的な姿勢、です。特に「やり抜く力」は、「GRIT」と言われ、さいたま市教育委員会でも子どもたちに身に付けさせたい力としています。これらの能力に共通していることは、知識などのように独りで身に付けられるものではなく、集団の中で、困難や失敗などの経験を通して培われるということです。そして、これらの能力を身に付けることは、「喜んで登校、満足して下校」のためにも必要ですし、そのためにはご家庭のご理解とご協力が欠かせないとも考えています。

ところで、先の彼は赴任以来、生涯一教諭として特別支援教育に専念してきたのですが、昨年、定年を前に退職し、今は埼玉県の障害者スポーツの振興に力を入れるとともに、若い頃からの夢である喫茶店を開店させる準備に追われています。教員時代をGRITでやり抜き、これからも夢を追い続けるとのこと。「根性と思いやりとやる気が、これからは役に立つな」と、お互いに確かめ合ってそれぞれの家路につきました。